

COVID-19 感染に対するセルフメディケーションの可能性についての考察

(有) 東薬局 薬剤師
長澤貴代子

COVID-19 が感染拡大を起こした 2020 年はじめ、保健所や医療機関の受け入れ体制が十分機能しない時期に、無症状者や軽症者等は自宅待機を求められて十分な医療が受けられない状況が生じた。

そこで地域医療における漢方相談薬局の役割として、中医学に基づく漢方薬や薬草茶を用いたセルフメディケーションの可能性について考えてみたい。

今回 COVID-19 の軽症と診断された患者のセルフメディケーションに関わったので報告する。

薬局店頭における COVID-19 感染の軽症の段階においてセルフメディケーションをサポートする場合には

- 1) 疫毒が肺を犯し発熱している段階
 - 2) 少陽膜原に入り込んだ段階
 - 3) 三焦に入り消化器症状が出ている段階
- などの鑑別をすることが重要だと考えられた。